

平成30年度 第3回よっちゃばれ放談会 要旨

日 時	平成31年1月16日（水）午後1時30分～午後3時
会 場	甲府市役所 9階 9-2会議室
参 加 者	各種団体代表者（6名）
市出席者	市長、教育長、教育委員、教育部長、教育総室長、学校教育課長、国際交流都市担当課長、市民部長、市民協働室長、協働推進課長
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 意見交換 5 まとめ 6 閉会
意見交換	
学校教育課長	<p>今年度3回目となります本日の「よっちゃばれ放談会」は、「国際感覚を持った子どもの育成」をテーマに、樋口市長と意見交換していただく機会として開催いたします。</p> <p>はじめに、本日出席いただいている皆様から自己紹介をお願いします。</p> <p>現在のお仕事や学校名、また、これまでの海外渡航歴や国際交流経験など含め自己紹介をお願いします。</p> <p>はじめに、参加者 A さんお願いいたします。</p>
参加者 A	<p>私は、もともと中学校の英語の教員で中学校の現場に長くおりましたので、そのような視点から本日のテーマであります「国際感覚を持った子どもの育成」について何かしら発言ができればと考えております。</p> <p>そして国際交流や海外への渡航経験につきましては、何度か経験はありますが、特に思い出深いのは、十数年前になりますが、甲府市姉妹都市友好教育研修派遣団として、中高生とオーストラリアを訪問したことです。</p> <p>ことわざで「百聞は一見にしかず」と言いますが、正にその時の生徒たちは、見ると聞くとは大違いといえますか、土地のもつ空気感や視野に入ってくる情報をどんどん吸収しているのが、はっきりとわかりました。</p> <p>また、交流後、子ども達からは、もっと英語を勉強して自分の想いを伝えたい、ホストファミリーや地元の人たちにとっても良くしてもらい、今度は自分で外国から来た人たちにおもてなしをしたい、自分たちが住んでいる日本の文化や伝統、山梨や甲府のことをもっと知りたい、それを外国の</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>友達に伝えたい、というような積極的な声が出るようになりました。 何もかもが新鮮に感じ様々なものを吸収できる年頃に文化交流することは、グローバルな人材を育む土台ともなりますし、さらに日本のことや、ふるさと山梨、ふるさと甲府をもっと知る機会になると感じました。 本日はよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、参加者 B さんお願いします。</p>
<p>参加者 B</p>	<p>私は、小学校の教師をしております。 日本語指導の担当をしており、本校の日本語指導が必要な子ども達と、市内に在籍する日本語指導が必要な子ども達の日本語指導をする仕事をしております。 甲府市は、外国人の子ども達が非常に多い地域でありまして、全国でも上位の在籍率となっております。本校にも多くの外国人の子ども達が在籍していきまして、勉強や色々な活動に頑張っております。 私は、本校の子ども達とペルー、ブラジル、フィリピン、中国などの国籍の子ども達、小学校1年生から中学校3年生までの子ども達に巡回指導で日本語を教えております。 また、在外教育施設の高度グローバル人材育成事業という国の5年間のプロジェクトに関わらせていただいております、海外の日本人学校、それから補習授業校に在籍する子ども達の日本語力向上とグローバル人材の育成のための取組みに携わらせていただいております。 アメリカのテキサス州ダラスの補習校に何回か訪問させていただき、補習校の先生方と日本語力の向上、それとグローバル人材の育成について研究をさせていただいております。 その他外国人の生徒のための高校進学ガイダンスもNPOの人達と連携しまして、そこにも関わらせていただいております。 本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p> <p>参加者 C</p> <p>甲府市立中学校に子どもを通わせている外国人の保護者として今日は参加させていただきました。 息子は、中学生で次世代甲府大使に認定されまして、FIRST FUJISANというロボット競技チームに入っております。一昨年はデンマークの大会に参加し、去年はアメリカのデトロイトで開催された大会に参加しました。この時の様子も後でお話したいと思います 私たち家族は20年前に来日し、息子は甲府で生まれ甲府で育ちました。</p>

	<p>私は専業主婦として子育てを行っていましたが、そのかわり海外のインターネット新聞で、一般市民として暮らしながら感じていることなどを記事にして発信していました。これをきっかけにラジオにも出演したりしました。</p> <p>子育てをする時に、甲府市の事業に参加して多くの日本人の友達ができまして、今でも交流が続いています。</p> <p>現在、外国人の相談業務に携わる仕事を行っていることから、外国人の気持ちがよくわかりますので、困った時などにフォローできるよう頑張っています。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p>
<p>参加者 D</p>	<p>甲府市とデモイン市の姉妹都市の交流プログラムで、以前、使節団の通訳として活動を行っておりまして、数年前に山梨県で行った研修を受け地域通訳案内士の資格を取りました。</p> <p>また、個人的に私が運営しています英語教室の講師として、子ども達の育成にも携わっています。</p> <p>外国への渡航、在住経験につきましては、15歳の時にデモイン市へ2週間滞在し、高校2年生の時には、1年間留学してニューヨーク州アークポートの高校に通いました。その後は、アメリカ、イギリスなどの英語圏だけでなく、もっと小さな国や発展途上国などに自分の力や能力を注ぎたいと思ひまして、20代はネパールなどをまわり、最終的には27歳の時に青年海外協力隊として、中央アジアのキルギス共和国に派遣され、2年間村の女性たちと活動しました。その後、帰国しまして、生まれ故郷であるこちらで結婚し出産を経て、現在家族と一緒に甲府で暮しています。</p> <p>英語教室を応援するかわり、甲府市の通訳と同時に甲府市の丸の内にありますアートスペースにおいて、公式の通訳としても活動しております。</p> <p>仕事として通訳をしながら甲府市に来る外国人の方々の受け入れに携わっているなかで、食に制限のある外国人が多く、情報を集めた地図などがありませんでしたので、チームを組みまして「マップフォーユー」というプロジェクトを立ち上げました。この活動を引き続き行いながら、外国から山梨県に来る方々へのサポート面においても、お手伝いできたらと思っております。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>

参加者 E	<p>現在、市内の小学校で ALT（外国語指導助手）として働いています。アメリカ出身で、大学で国際ビジネスと日本語を勉強しました。日本に 6 年間住んでいまして、妻は日本人で二人の息子がいます。</p> <p>放談会は初めてですが、よろしくお願いします。</p>
学校教育課長	<p>最後に、参加者 F さんお願いします。</p>
参加者 F	<p>高校 3 年生の夏に海外研修派遣団の一員として、甲府の姉妹都市であるデモイン市に行かせていただきました。3 歳のころからインターナショナルスクールに通っていたことで、幼い頃から英語に関心があったのですが、受験生であった私にとって、デモイン市に行った経験が将来を考える大きなきっかけとなりました。</p> <p>本日は、私だけ学生ということで緊張していますが、学生ならではの視点でお話できたらと思います。よろしくお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>それでは、意見交換に入らせていただきます。</p> <p>本日のテーマ「国際感覚を持った子どもの育成」として、3つの視点から、それぞれ 4 人の皆さんにご意見をいただき、それに対するコメントを樋口市長からいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最初は、「国際交流活動を通じて感じたこと」につきまして、ご意見を伺います。はじめに、参加者 B さんお願いします。</p>
参加者 B	<p>学校で教師をしていますので、学校の教育活動の中で感じたことをお話しさせていただきます。</p> <p>学校生活の中で、子ども達、私たち大人、教職員にも異文化に対する様々な偏見や差別の心があることを感じます。その国や民族の事を知らないで社会的国際的な状況、マスコミやコミュニティ、家族や友達などから誤った、また偏った情報を受け取ることから生まれるものだと感じます。</p> <p>学校の国際理解、国際交流の活動を実践する中で、外国人の友達、保護者、地域在住の外国人と交流し、その文化を体験する。例えば、民族衣装を着る、外国人の保護者や子どもを講師に中国料理、韓国・朝鮮料理、ブラジル料理などを作って食べる、各国の遊びをする、文字や会話を学ぶなどを通して、子ども達の偏見が少しずつ改善されていきました。人と交流し、文化を体験する活動は、相互理解を含め、それが偏見や差別の心も変えていく、とても大切な取り組みだと実感しています。</p> <p>国際理解、国際交流の活動では、学校に在籍する外国人の子どもたちを活かす取り組みが大切だと考えています。外国人の子ども達が在籍しているのに、全然繋がりのないところから留学生を呼んできて、国際理解の取</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>り組みを行ったりということではなく、子ども達または、その保護者が講師になって、その国の文化である衣食住や言語、遊びなどを学ぶことにより、日本人の子ども達は異文化を知識として学ぶだけでなく、その友達 の文化を学ぶことにより、その文化を尊重し大切にしようとする態度も育てられると思います。また、外国人の子ども達は、自分の持つ文化に対する誇りや自己有用感の向上にも繋げられると思います。このような取り組みに、子ども達は生き生きとした顔を見せてくれています。</p> <p>学校に在籍する身近な友達の文化を学ぶ、そして交流するということは、とても大切なことだといつも感じております。</p> <p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>子どもが国際大会に参加していることもありますし、自分も外国人として生活していることから、国際交流活動を行うには言葉が通じるということが重要であると思います。</p> <p>私は日本語が話せたので、日本でも楽しく生活することができました。周りには日本語が話せないことで、寂しい思いをしている人が大勢いましたので、早く日本語を覚えて欲しいといつも思っていました。</p> <p>私の息子ですが、ロボット競技の国際大会に参加しており、全て英語で発表したり、他の子ども達とも交流しなければなりません。初めて海外の大会に行った時と 2 回目に行った時とでは、子どもの様子が違って見えました。初めに行った時には表情が硬く自分から話をする事ができませんでしたが、2 回目に行った時は、雰囲気からも前回とは違って見えました。</p> <p>また、大会には各国の子ども達が参加するので、英語だけでなく、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語など色々な言葉が飛び交っています。この中で必要なのは笑顔と、伝えたいという熱い気持ちが大事であると思います。大会はロボット競技だけではなくて、事前に準備してプレゼンテーションを英語で行わなければなりません。その時に審査員の方から思いもよらない質問があった時など、どの様に対応するのも採点に加わります。英語ができなくても、大会を重ねるごとに自分の気持ちを伝える事ができるようになり、このような経験が大事であると思いました。</p> <p>また、周りの環境も大事であると思います。家族ぐるみで国際的な事に興味を持って日常生活を過ごせば、子どもは自然に勉強したいという気持ちになるのではないかと思います。</p> <p>日本人の特徴としてシャイで積極的に意見を話さないと云われますが、大会での子ども達の表情を見ても硬いですが、それを崩すことで会話が生まれるので、経験を重ねることが非常に大事であると思いました。</p> <p>私の周りの大人の外国人につきましても、日本で生活が不便なく送れる</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>よう、日本語が学べる機会が数多くあれば、より良いのではないかと思います。</p> <p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p>
<p>参加者 D</p>	<p>子どもや生徒と触れ合う中で感じることは、言葉から入って国際交流活動を行いましょいうのは私も苦手ですし、色々な活動を通して、後々「あれが国際交流だったんだ」と思えるくらいでいいのかなと私は感じております。</p> <p>私の英語教室では、今年度の取り組みとして「世界の国のお話し会」を行っていきまして、毎月一人ゲストを招きまして、色々な国の文化、食べ物、ファッションなどについて、子ども達に話をしてもらっています。</p> <p>私のできることは機会を与えることであり、子ども達は、それが国際交流なのか解っていませんが、後々、子ども達が気づくことでいいのかなと思います。子ども達は、講師と友達になり、お菓子を交換したりすると、子ども達の中では、実際に触れ合い友達になったということが大きな財産となり、それが楽しかった記憶として残り、子ども達にとってのモチベーションになるのではないかと思います。</p> <p>私たち大人も同じで、身近で困っている人がいたら、何人であろうと何歳であろうと助けると思います。今、私達に足りないものは何なのかというと、外国人の方々と交流やする機会や、触れ合う機会が少ないことであると思います。もっと自分たちの街や社会にコミュニティの場所があってもいいのではないかと思います。そこには必ず人が集まりますので、その時に自分から話をするのできることで、今何が必要なのか、例えば英語の標記であったり情報の提供が少ないとか、身近なところから私達にもできることであり原点ではないかと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、参加者 F さんお願いします。</p>
<p>参加者 F</p>	<p>私は高校3年の夏に、甲府市の姉妹都市であるアメリカ アイオワ州 デモイン市へ海外研修派遣団の一員として参加し、多くの貴重な経験をさせていただきました。</p> <p>2年経った今でも、やり取りは続いておりまして、今年の6月に、私のホストマザーが来日した時に、東京の浅草、渋谷、原宿などを一緒に散策したり、夜も一緒に夕飯を楽しんだり、私の地元である甲府の魅力をたくさん知ってもらい、お互いの地域や文化の特色を知る良い機会となりました。</p> <p>国際交流活動は、住んでいる場所や文化の違いといった壁を越えて、私</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>たちの「つながり」を感じさせてくれるものだと思います。国際交流を通して得た出会いや経験は、日常生活や進路実現において、確実に私の「糧」となるものと実感します。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、これまでの話の中で、樋口市長、お願いします。</p> <p>参加者Bさんのお話ですけれども、今はどの学校においても外国の子どもが在籍していますので、低学年の頃から楽しく交流することで、国際交流、多文化交流についてお互いに育まれ、非常に大事な事だと思います。また、地域での事業も行ってありますが、今後につきましても更に進めてまいりたいと思います。これからも現場の声をいただき、取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>参加者Cさんのお話ですけれども、日本人はとても奥手だと思います。子ども達にも自己主張をしっかりとできるような教育を推進し、外国人の方にも日本語を覚えられるような機会を増やしていけたらと思います。また、新学習指導要領にもありますように、自己主張をして相手の自己主張も理解し、双方が認め合えるような教育を推進していきたいと思います。</p> <p>参加者Dさんにつきましては、専門家でもありますし国際交流の術も知っていると思います。なかなか打ち解けづらい子ども達もいますが、どのように育てていくのかといいますと、お互いに認め合える機会を与えることが重要ではないかと思いました。</p> <p>また、ハラルにつきましても、観光地などにつきましても必要に迫られ進んでいますが、こちらでは礼拝する場所もないなどの様々な問題もあります。東南アジアの方々もインバウンドで増えてきていますし、こちらでお仕事をしている方につきましても、不自由がないように少しでも壁を取り払うよう取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>参加者Fさんのお話ですけれども、今でもホームステイ先の方と継続して交流が続いているということで、大変ありがたく感謝を申し上げたいと思ひます。ぜひ、大学内においても更に経験を生かして皆さんにお伝えいただき、一緒に交流できる友達を増やしていただければありがたいと思ひます。</p> <p>また、参加者Fさんのように国際交流事業を人生の「糧」として捉えていただけるよう、これからも推進していきたいと改めて思ひました。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして2つ目としまして、「英語力・コミュニケーション能力の向上に必要なこと」につきまして、ご意見を伺います。はじめに、参加者Aさんお願いします。</p>

<p>参加者 A</p>	<p>英語力・コミュニケーション能力を身に付けるために、先ず必要なことは「自分の意見や考えをしっかりと伝えること」、それに付け加えて相手の意見や考えも受け入れる力、国籍や文化、教育、生活習慣が違う相手であっても、そのまま認めることなどを養うことが重要であると思います。</p> <p>間もなく、英語は中学からという時代は終わり、2020年度からは小学校でも5、6年生で外国語が教科化され、また、3、4年生で外国語活動が全面実施となります。学校、特に小学校では、子ども達が外国語の学習に興味関心が持てるように、言語力の育成はもとより、日本と他国の文化や生活習慣の違いなどの学習にも力を入れていかなければいけないと考えています。</p> <p>現在実施している市の姉妹都市友好教育研修派遣団は、中学生、高校生という多くのものをスポンジのように吸収できる世代にとって貴重な経験となっていると思います。</p> <p>また、ALTと一緒に外国語を学ぶことは、すべての小中学生にとって身近な外国人と交流できる、またとない機会であると思います。まさに、そのことが異文化交流をしていることになり、英語力・コミュニケーション能力の向上に大変有効であると感じています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>国際化時代に向けて、子ども達には、英語力・コミュニケーション能力をつけていってほしいと思います。どうすればコミュニケーション能力が向上できるか考えていますが、色々な経験をさせることが大事であり、経験の場は周りの大人達がつくってあげられると思います。</p> <p>子ども達も色々なことに参加し経験することで、英語をもっと上手く喋りたいというような気持ちが生まれてくるのではないかと思います。</p> <p>また、自分の意見を持つこと、自分で考えられることが重要であると思います。私の子どもは、日本の教育を受けているので、日本語をしっかりと覚えてほしいと思います。英語とか他の言語は、表現するための手段であることを、子どもにも解って欲しいと思います。</p> <p>FIRST FUJISAN というチーム活動のことですが、普段から笑顔づくりを心掛けており、大会が進んでいくにつれて、自然な笑顔になってくるのがわかります。笑顔は世界共通であり、笑顔の人には話しかけやすく、親近感も生まれるため交流しやすくなると思います。</p> <p>仕事を通じて各大学での取り組みを聞いておりますが、留学生たちが一番喜ぶのは小学生たちと交流することだそうです。小学校レベルでの外国人との交流や、日本人と外国人が接することができる機会を多くつくるこ</p>

	<p>とが出来ないかと思えます。</p> <p>大人が子どもに行き行ってやれることは何かということをお考えた時に、「やりたくなる環境」「やらざるをえない状況」「やる機会の提供」このような環境や状況をつくり、様々な経験をさせる機会を与えることが大切ではないかと思えます。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
参加者 E	<p>文部科学省の教科書も良いですが、授業の中で、外国の映画を見たり、外国語で書かれた本などを使用することによって、実際にネイティブが使用している発音や言い回しなどを学ぶことができると思えます。</p> <p>また、インターナショナルスクールでは、実際に外国で使用している教材を用いて外国語を学んでおり、子ども達にとって、とても大切なことだと思えます。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、参加者 F さんお願いします。</p>
参加者 F	<p>私は、学生生活の傍ら飲食店でアルバイトをしており、外国人のお客様が来店されることが多くありますが、私の英語力が未熟なため、接客の際に「おもてなし」が十分にできないことがあり、ホームステイをしていた時から言葉だけではなく、表情やジェスチャーなどを用いたコミュニケーションの大切さを感じています。</p> <p>私には TOEIC で高得点を取ることができる友人がいますが、その友人は、いざ外国人の方を目の当たりにすると会話が上手くできずに悩んでいます。重要なのは、どれだけ完璧に英語を話せるかよりもどれだけ相手に自分の気持ちを伝えたいかということであり、会話に慣れることや相手の気持ちを読み取ることが大切だと思えます。また、大学内に今年から国際交流室ができ、留学生の方とコミュニケーションを図る機会が増えました。2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、今のうちから様々な国の方との交流を増やして、経験を積んでいきたいと思えます。</p> <p>また、私はボランティア活動を行うサークルに所属していますが、サークルの主な活動として、難民支援活動を行っており、学食のランチセットの売り上げの一部を寄附しています。このような活動を通じて、自分の国だけではなく、外国にも目を向けようと努力しており、大学内に留まらず多くの方に活動を伝えていきたいと思えます。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。それでは、これまでの話の中で、樋口市長、</p>

<p>市長</p>	<p>お願いします。</p> <p>市内のある小学校を訪問した際、廊下や階段の壁に曜日や動物など様々なものが英語で書かれており、担任の先生や ALT の先生の授業に子ども達が楽しそうに取り組んでいたことが印象に残っています。特に低学年の児童は、「習うより慣れろ」という諺にもあるように、まずは英語に慣れることが大切であり、慣れてくれば楽しく夢中になって英語に取り組めるのではないかと思います。ALT の先生の正しい発音などを習得することが大切であるため、引き続き英語を学べる環境づくりに取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>参加者 C さんからは、子ども達は熱い思いと笑顔で取り組み、大人は子ども達に様々な経験をさせる機会を与えることにより、困難を乗り越えることができるといったご意見をいただきました。</p> <p>昨年、甲府の大学に留学している留学生の方々と「よっちゃばれ放談会」を開催し意見交換を行いました。こちらで就職を希望する方が多くいました。現在、各大学や地域で多文化交流を行っていますが、本市としましても外国人の方にこうふ開府 500 年などの様々なイベントに参加していただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>参加者 E さんからは、外国の映画や本などを活用した授業についてのご意見をいただきました。本市では 15 人の ALT を採用し、そのうち 8 人を小学校に配置しており、小学生のうちからネイティブな英語に接してもらっていますので、今後も引き続き取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>参加者 F さんからは、自身が行っている貴重なボランティア活動のお話を伺いましたが、今後も引き続き国際交流活動に取り組んでいただきたいと思ひます。</p> <p>毎年多くの外国人の方々が日本や山梨、甲府に来ますので、本市といたしましても外国人の方々と交流する機会を提供していくことが大切であると感じました。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>最後に 3 つ目としまして、「グローバル人材の育成に必要なこと」につきまして、ご意見を伺います。はじめに、参加者 B さんお願いします。</p>
<p>参加者 B</p>	<p>甲府市立の小中学校では、外国人の子ども達が多く在籍しており、どの学校でも当たり前のように日本人の子ども達と隣り合って学んでいます。</p> <p>その中で外国人の子ども達を日本語ができない、手がかかる、異文化間の摩擦を生むなどの理由でお荷物として捉えるのか、またはグローバル人材の育成に繋がる宝物として捉えていくのかが、これから迎える国際化社会に問われている課題であると思ひます。</p>

私は、多くの外国人の子ども達を教えています。その中には受験生もあり、来日して数年で日本の高度な高校入試を受ける子どももいます。私は英語教育を受けてきましたが、もし、アメリカの高校入試を受けたとしたら、合格するのだろうかと思ひますし、韓国やアラブ諸国など全く知らない国に行き、数年でその国の高校入試を受けたとしたら、果たして結果はどうなるのだろうかと思ひます。その位、子ども達は大きなハードルに挑戦しています。

山梨県では、外国人の子ども達の高校の就学年齢における就学率は、日本人の子ども達の就学率が98%以上であるのに対し、約40%という低い水準であるため、非常に心を痛めています。また、高校の合格率も低く、全日制では約80%、定時制では約40%となっております。このことは高校に関する事なので、県の所管かもしれませんが、小中学校には私のような外国人の子ども達に日本語を教える教職員がおり、支援体制が整っていますが、高校では外国人の子ども達を支援する体制が不十分であるといった話を聞いたことがあります。このことが、外国人の子ども達の高校への就学率、合格率の低さに繋がっていると思われまふ。先ほども話したように外国人の子ども達は、グローバル人材の育成に繋がる宝物として育成していけるような教育環境の整備が重要であると思ひます。

話は変わりますが、今日私がこちらに来る前に、学校で外国人の子どもが泣いており、教頭先生にままならない日本語で一生懸命訴えていました。こうした子ども同士のトラブルは、学校では毎日のように起きていますが、子ども達がトラブルや困難を乗り越え成長していけるのは、外国人の子ども達がいるおかげであり、彼らを宝物として生かしていけるような取組こそがグローバル人材の育成に必要なことであると思ひます。

学校教育課長

続きまして、参加者Dさんお願いします。

参加者D

私は、子ども達に英会話を教える者として、また青年海外協力隊のOBとして子ども達に伝えたいことは、その国について興味を持つことが大切であるということです。男の子であれば恐竜や電車、女の子であればファッションやダンスなど自分の興味があることは必ずどこかの国と繋がっていますので、何でも良いので興味を持ってもらうことが大切だと思ひます。

例えば、コーヒーが好きであれば、原産国であるアフリカの国々、サッカーが好きであればワールドカップが開催される国、建築物が好きであればスペインやイタリアのようなヨーロッパの国々というように自分の興味があることを堂々と言える子どもになって欲しいと思ひますし、子どもは偏見もないため、その気持ちをずっと持ち続けて欲しいと思ひます。

また、大人ができることは、子ども達が興味を持っている国の人と引き

	<p>合わせてあげたり、英語を学ぶ機会を提供することだと思いますし、子ども達の興味のある分野が、色々な国と繋がっていることを教えてあげたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
参加者 E	<p>世界に視野を向けることを教えることが大切だと思います。それから、甲府に限らず全国共通のことですが、東日本大震災の時に多くの ALT の方が母国に帰ってしまいましたので、長くその地に住みたいと思っている ALT を探すことも大切だと思います。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、参加者 A さんお願いします。</p>
参加者 A	<p>平成 23 年に開催された文部科学省主催の産学連携のグローバル人材育成推進会議の資料によると、グローバル人材とは、要素 1 として、語学力、コミュニケーション能力。要素 2 として、主体性、積極性、チャレンジ精神、協調性、柔軟性、責任感、使命感。要素 3 として、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー。という三つの要素を兼ね備えている人材と定義されています。この中にあるチャレンジ精神や積極性などは、日本人にとって不得意とされている分野ですが、グローバル人材に必要な要素となっており、新しい学習指導要領にも当てはまっています。</p> <p>様々な能力を総合的に身に付けることがグローバル人材の育成に繋がるとは思いますが、そのための近道はなく、小中学校の 9 年間の地道な学習によって培われていくものだと思います。</p> <p>昔から言われていることですが、外国に行って体験することや外国人の方と触れ合う機会を増やすことが重要ですし、このような交流を通して、子ども達は異文化に対する理解を深めたり、多様な考えがあることに気づくきっかけになると思います。私達は学校現場でもこのような機会を増やすよう工夫していなければならないと思いますし、甲府市におきましても子ども達が外国人の方と触れ合える機会を与えていただければありがたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。それでは、これまでの話の中で、樋口市長、お願いします。</p>
市長	<p>参加者 B さんのおっしゃるとおり、私も学校現場は生きたグローバル人材育成の場と捉えています。外国人の子ども達をグローバル人材の育成に繋がる宝物として捉え、宝物をしっかり守り、生かすことが必要だと思います。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>ますので、今後もバックアップしていきたいと思います。</p> <p>いずれは、甲府から世界に羽ばたく人材が出てくると思いますが、その方々は生まれ育った甲府を愛し、甲府について真剣に考えていただけたらと思います。</p> <p>参加者Dさんの現在のお仕事は、中学生の時のデモイン派遣がきっかけのひとつになったのではと感じていますので、派遣事業などを継続することにより、参加者Dさんのような国際的に活躍できる人材を輩出できるのではないかと思います。</p> <p>また、全ての子ども達に情熱があると思いますので、子ども達が興味を持っている分野や憧れている分野が世界のどの国と繋がっているのかといったことを引き出せるような機会づくりを考えていきたいと思います。</p> <p>参加者Eさんのお話にもありました、いつも同じ場所で同じ生活を繰り返していたのでは、グローバル人材の育成はできないと思います。参加者Eさんはアメリカを飛び出し、縁あって甲府で教壇に立ち、情熱を持って子ども達に教えていただいておりますので、ご意見にもありましたようにALTの方々に長く甲府に居ていただけるような環境づくりを考えていきたいと思います。</p> <p>参加者Aさんのお話にあった、グローバル人材を形成する3つの要素を兼ね備えた人材を育成するために、学校現場と一緒に取り組んでいかなければならないと思います。新しい学習指導要領を子ども達に浸透させるとともに、子ども達の未来にとって甲府の教育が糧となるように力を合せて取り組んでいきたいと思います。</p> <p>本日は、出席者の皆様から大変貴重な意見をいただきありがとうございました。本日の意見交換会のまとめといたしまして、市長よりコメントをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>本日は、よっちゃばれ放談会にご出席いただき誠にありがとうございました。今回のテーマであります「国際感覚を持った子どもの育成」につきましては、今後さらに加速していくグローバル社会を迎えるにあたりまして、未来を担う子ども達に異文化を肌で感じてもらい、より多くの体験をしてもらうことが大切であるといったご意見をいただきました。</p> <p>昨年6月にデモイン市の派遣団が本市を訪れ、ホームステイ先のご家族を中心におもてなしの心で日本の文化や伝統を伝え、8月には甲府の中高生がデモイン市を訪れました。海外の方々とふれあいを通じて体験したことは、子ども達の視野を広げ、改めて日本や甲府について考えるきっかけになったのではないかと思います。</p> <p>また、国際感覚を持つには語学力が重要であり、特に英語は世界共通語</p>

となっていることから、本市におきましては今年度より ALT を15名に増員し、各校で子ども達が英語にふれあう機会を創出しております。こうした事業は、本市の未来を担う子ども達の思いやる心や生きる力を育み、今後さらに加速していくグローバル社会に向けてより多くの体験をしていただきたいという期待を込めて実施しております。

皆様からいただきましたご意見につきましては、「国際交流都市こうふ」を目指すうえで大変貴重なものであるため、今後の施策に生かしてまいりたいと思います。

本日は、誠にありがとうございました。